

5 知的機能と情意機能の発達

年	組	番	名前
---	---	---	----

1 心の働きについて、次の文章の〔 〕に当てはまる語句を下の語群から選び、記号で答えなさい。

心は、〔①〕の働きの一部分で、〔②〕機能、〔③〕機能、〔④〕などの全体をいう。いろいろな〔⑤〕を積み重ねると、脳の〔⑥〕どうしのつながりが複雑になり、心のいろいろな働きを同時に素早く実行できるようになったり、過去の経験をすぐに思い出せるようになります。

ア 神経細胞 オ 能力	イ 心臓 カ 知的	ウ 経験や学習 キ 大脳	エ 社会性 ク 情意
----------------	--------------	-----------------	---------------

①	②	③
④	⑤	⑥

2 知的機能の発達、及び情意機能の発達について、次の各文の〔 〕に当てはまる語句を下の語群から選び、記号で答えなさい。

- (1) 知的機能とは、言葉を使う、〔①〕する、〔②〕する、〔③〕する、〔④〕するなどの力をいう。例えば、言葉が発達するとは、知っている単語が多くなるだけでなく、言葉を使って説明したり、考えたり、意見を言ったり、推理したり、まとめたり、新しい問題を自分で判断して解決したりする力が伸びることをいう。
- (2) 幼い子どもの知的機能は、〔⑤〕など身近な人との関わりの中で発達する。年齢とともに、知的機能を発達させる〔⑥〕や〔⑦〕の機会は広がる。
- (3) 心の働きのうち、うれしい、悲しい、怒りを感じるなどの気持ちを〔⑧〕という。また、〔⑨〕のために行動しようとする気持ちを〔⑩〕という。感情と意志を併せて、情意機能ともいい、いろいろな生活経験や学習により発達する。

ア 感情 オ 記憶 ケ 目的	イ 欲求 カ 意志 コ 判断	ウ 学習 キ 家族 サ 生活経験	エ 理解 ク 友人 シ 推理
----------------------	----------------------	------------------------	----------------------

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧
⑨	⑩		

6 社会性の発達と自己形成

年	組	番	名前
---	---	---	----

1 社会性の発達について、次の各文の〔 〕に当てはまる語句を下の語群から選び、記号で答えなさい。

- (1) 幼い子どもは、〔①〕など、自分をよく分かってくれる人に囲まれ、その人たちを頼つて生活している。年齢とともに生活の場は広がり、〔②〕が増え、さまざまな年齢や間柄の人と〔③〕ながら生活するようになる。
- (2) こうした人との関わりを通して、〔④〕を送るために必要な態度や行動の仕方が少しずつ発達する。また、〔⑤〕について、いろいろな面から考えられるようにもなる。このような態度、行動の仕方、考え方などを〔⑥〕という。
- (3) 社会性の発達とともに、家族や友達に甘えていた状態から抜け出し、〔⑦〕しようとする傾向が強くなる。しかし、その一方で、自信がない、人に甘えたいという〔⑧〕した気持ちも生まれ、気持ちが揺れ動くことが多くなる。

ア 社会性 オ 社会生活	イ 自立 カ 関わり	ウ 友人や知人 キ 矛盾	エ 家族 ク 他人や社会
-----------------	---------------	-----------------	-----------------

① ⑤	② ⑥	③ ⑦	④ ⑧
--------	--------	--------	--------

2 自己形成について、次の文章の〔 〕に当てはまる語句を下の語群から選び、記号で答えなさい。

思春期になると、他人と自分との〔①〕や、他人から見た〔②〕を強く意識するようになる。また、人の立場や考え方などの特徴〔とくちょう〕について理解が深まってくる。そして、自分が人生で大切にしたいことや、人生の〔③〕にしたいことについても、少しずつ考えられるようになる。このように、自分なりの考え方や行動の仕方がつくられていくことを〔④〕という。

ア 違い	イ 目標	ウ 自己形成	エ 自分の姿
------	------	--------	--------

①	②	③	④
---	---	---	---

7 心と体の関わり

年	組	番	名前
---	---	---	----

1 心と体の関わりについて、次の文章の〔 〕に当てはまる語句を下の語群から選び、記号で答えなさい。

脳は、体の働きを調節しているため、心の状態が体に影響することもある。例えば、緊張や不安を感じると、それが〔①〕の働きに影響したり、内分泌腺に影響して〔②〕の出方を変化させたりするので、体にもいろいろな変化が起こる。

ときには、心の不調の影響で、体に〔③〕などの症状が現れることや、実際に体の病気になることもある。体調が悪いのに体に原因が見つからないときには、心の不調が〔④〕ではないかと考えてみることも大切である。

ア ホルモン	イ 原因	ウ 自律神経	エ 頭痛や腹痛
--------	------	--------	---------

①	②	③	④
---	---	---	---

2 心と体が影響し合う心身相関について、次の問いに答えなさい。

(1) 緊張や不安によって、体にどのような変化が起こるか答えなさい。

だ液	
心臓	
汗腺	
血管	
胃や腸	
ぼうこう	
筋肉	

(2) 暑さで脳を流れる血液の温度が上がったり、呼吸が浅くなって血液の中の酸素が減ったりすると、どのような現象が起きるか。

--

(3) 緊張が強すぎたり、疲れで勉強に集中できなくなったり、気分が落ち込んだりしているときに、深呼吸、ストレッチング、体ほぐしの運動、入浴などをすると、気分が爽やかになることがある。これは、体にどのような変化が起こるためか。

--